

海老名総合病院附属海老名メディカルサポートセンター 地域の健康な生活の保持と増進を支援する 海老名メディカルサポートセンター

編集委員 井桁 嘉一



海老名メディカルサポートセンター 外観

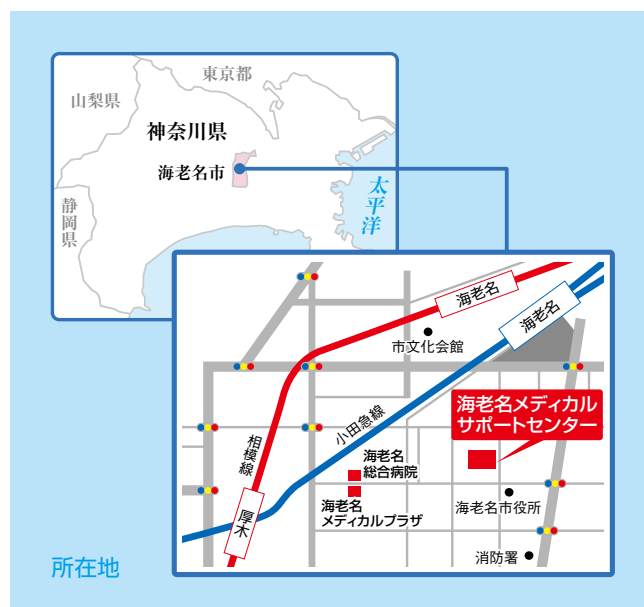
社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院附属海老名メディカルサポートセンター(センター長 杉原弘晃 先生)は神奈川県海老名市にあり、市内では最大の健診施設です。センターには稼動当初より日立健診システム「ヘルゼア^{*1}」および日立画像システム「OPEN-PACS^{*2}」をはじめ一般撮影装置DHF-155H II、X線診断システムmedix^{*3} 3000、超音波診断装置EUB-2000などが導入されています。2009年8月にはシステム製品について、次世代型健診業務トータルサポートシステム「Helseher Neo^{*4}(ヘルゼア ネオ^{*5})」、健診データ収集システム「けんしんくん^{*6}」とWeb画像システム「WeVIEW^{*7}」および画像診断ワークステーション「NV-1000」に更新していただきました。

今回は新システム稼動後の状況と今後のセンターの方向性などについて、伊東明美 副センター長および放射線技術部長 原 孝一 部長をはじめスタッフの方々にお話をお聞きました。

○はじめに海老名メディカルサポートセンターの概要とシステム更新について原 孝一 部長にお話を伺いました。

●施設の概要について

井桁：センターの概要についてお聞かせいただけますか。



原 部長：当センターは病院併設型の健診センターです。海老名地区には社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス系列の医療機関が3つ隣接しており、地域医療支援病院としての機能を担う『海老名総合病院』（以下総合病院）と外来専門施設としての『海老名メディカルプラザ』の両施設と密接に連携した質の高い二次検査(精密検査)を行えるよう健診実施後のフォローアップ体制を整えています。2001年6月の開設から8年の月日が経ちましたが、この間市内で最大の健診施設であることから、年々利用者数は着実に増え続け、2008年度には年間利用者数が9千名を突破いたしました。

井 柝：センターで特に力を入られていることは何でしょうか。

原 部長：具体的には、病気の早期発見・早期治療が極めて重要であるという視点から、地域・職域の方々を対象に、人間ドックや各種健診を実施するとともに、生活習慣病、メタボリック症候群などの改善・進行防止のための保健指導事業に力を入れております。

一方、急性疾患の後遺症などにより長期療養を余儀なくされた方には、医療、介護、リハビリテーションといった総合的な入院サービスを提供しております。また、在宅療養を目指される方に切れ目のないサービスが受けられるよう、訪問看護、訪問介護、福祉用具貸与などの在宅介護サービスも合わせて提供しております。

さらには、来る超高齢化社会の中で活力を損なわぬよう、アンチエイジング医療としての美容外科やアロマセラピーな

どの代替療法にも力を入れて参ります。

また、人間ドックにおいても新しいコースメニューの作成や新規検査項目の取り込みにも力を注いでおり、最近では体内成分測定装置「InBody^{®8}」による『体組成検査』や血液検査による『遺伝子検査』などを追加しました。

●システム更新について

井 柝：今回システムの更新を決断されるに至った経緯について教えていただけますか。

原 部長：2001年の開設以来使用してきた日立メディコ製の健診システムおよび画像システムですが、受診者の増加にともない発生するデータ量も増加し、特に画像データについては一時保存として当初3ヶ月分を保存できていたものが1か月分しか保存できなくなりました。また健診システムではOSがWindowsNT^{®9}であることがさまざまな面でネックとなり、システム全体の更新を検討すべき時期にきていました。

井 柝：そのような状況で日立メディコの製品を選択いただいた理由は何だったのでしょうか。

原 部長：更新にあたっては数社から見積りをとり、それぞれ比較検討を行いました。その中には既存システムからのデータ移行費用を含めても日立メディコより安いメーカーもありましたが、やはり継続性と信頼度を重視して決めました。しかし一つ言わせてもらえるとすればWindowsなどのOSや汎用のソフトウェアの多くにはバージョンアップという考え方



海老名メディカルサポートセンター
伊東明美 副センター長



原 孝一 放射線技術部 部長



メディカルサポートセンターロビー



ヘルスサポートセンター受付

があり、同じソフトを購入するにしても更新の方が新規で購入するよりも安価に購入できる仕組みがあるのはご存知だと思います。今回のシステム更新でもカスタマイズ部分を除いたシステムの根幹の部分については、現行ユーザであることを加味いただいて価格的に優遇されていることをもっとわかる形で提案いただけた方が、選定するメリットを感じられたと思います。

井桁：確かにその通りだと思います。新システムと使用状況についてお聞かせいただけますでしょうか。

原 部長：午前中に人間ドックや企業健診(約30人)、午後には海老名市や近郊の方々の健診(約30人)を行うことで一日フル稼働させています。旧システムでは受診票にリライトカードを使用していたのですが、カード上に受診項目を記載できる反面、登録できる項目数に上限があり運用でカバーする必要がありました。そこで新システムではバーコード方式の「けんしんくん」に変更しました。検体検査は一部を除き総合病院へ依頼し、結果を総合病院の臨床検査システム「HILAS^{※10}」からオンラインで「ヘルゼア ネオ」に取り込んでいます。また、「WeVIEW」には胸部X線、胃部X線、超音波、内視鏡、眼底の画像を保存し、読影室をはじめ各面談室で参照しています。また、総合病院の読影室にも健診端末と「NV-1000」を設置し、胸部および胃部の画像の読影を依頼しています。

●システム更新の効果について

井桁：システムが切り替わってから約3ヶ月経過しましたが、新システムはいかがでしょうか。

原 部長：新システムでは旧システムで足りないと感じていた部分をほぼまかなえたと思っています。派遣医の先生にシステム更新による負担をかけないために、画面のレイアウトについても旧システムのレイアウトに合わせてもらえるよう要求し、実現していただきました。また、「WeVIEW」を導入したことによって健診端末上で高精細のビューアと同じように画像を参照でき、かなり便利になりました。細かいことですが、受診者IDや氏名などの修正や画像の編集操作が以前に比べて格段に使いやすくなっています。そのため万一受診者の氏名を間違えたまま撮影してしまった場合でも面談までには確実に修正を終えることができています。

○健診システムについて事務部門の青柳奈緒美 リーダーにお話を伺いました。

井桁：「ヘルゼア ネオ」をお使いになられてどのような印象をお持ちですか。

青柳リーダー：最近になってようやく新システムに慣れてきたところですが、以前に比べると自動判定や帳票の印刷がかなり早くなったので、この点が一番助かっています。さらに帳票についてはレイアウトの変更や項目の追加といった作業もとても楽になりました。これは今後システムを維持・運用し



青柳奈緒美 事務リーダー



海老名メディカルプラザ 内山史生 放射線科 医長



鈴木美和 放射線リーダー



X線診断システム medix 3000

ていくにあたっては非常に重要な改善点だと思います。その他にも使用頻度は少ないのですが、使っていく中で多少不便なところが見えてきたので、いくつか修正の依頼をお出しし、検討いただいているところです。

井桁：どうしても旧システムで慣れていた部分为新システムで変わってしまったりすることがあると思いますが、SEがお力になれるよう継続的にフォローさせていただきます。

○画像診断ワークステーションと健診システムについて海老名メディカルプラザ 放射線科医長 内山史生 先生にお話を伺いました。

井桁：新システム、特に「NV-1000」の使い勝手はいかがでしょう。

内山先生：以前のシステムよりも画像が見やすくなりました。特に画像処理のエッジ強調は活用しています。また、健診システム側と連動して画像が自動で表示されるため、連続して読影を行うルーチン業務ではとても便利です。ルーチン業務の途中でも画像ビューアを単独で利用でき、その後でルーチン業務に戻ることも簡単に行えるため、使いやすいと思っています。その他にも矢印など、画像上に描画したアノテーションの情報を保存できるようになっているためこちらも活用しています。ただ画像のサーバが別棟にあるためか、画像の表示レスポンスが遅いと感じています。健診以外にも総合病院の画像など数多くの読影を行っており、短時間に件数をこなさなければならないため、この点も改善点の一つと思っています。

井桁：いただいたご意見を含め、今後も常にシステムの向上を図ってまいりたいと思います。

○システム全体について伊東明美 副センター長にお話を伺いました。

井桁：今回のシステム更新についてのどのように評価されておりますでしょうか。

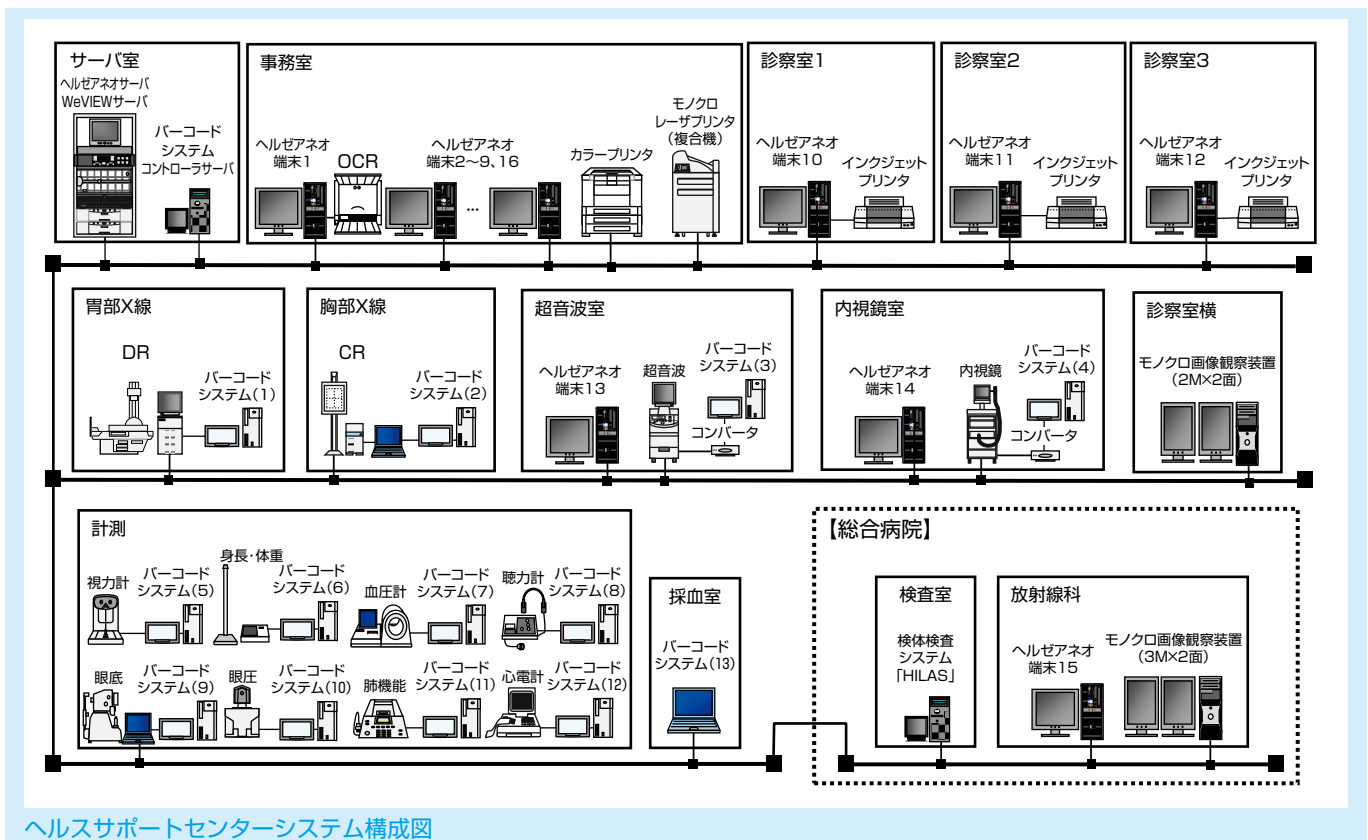
伊東副センター長：やはり自動判定と帳票の印刷について処理速度が改善され、事務処理が相当楽になったと思います。また、自動判定に関しては設定されている判定ロジックを理解しやすくなりました。それ以外にも旧システムでいろいろとネックになっていたところは改善され、使いやすくなったと思います。

旧システムのときから受診者の方々に好評である結果報告書への検査画像のプリントについても新システムでも実現させることができました。以前は報告書に一部手書きの部分が残っていましたが、それらもすべて自動印字されるようになり、受診者に与える印象も良くなったと思っています。また、これまで報告書はA3サイズの用紙に出力していたため用紙を折る作業が必要でしたが、すべてA4サイズの両面印刷に変更したことで省力化することもできました。

●今後のセンターの方向性について

井桁：メディカルサポートセンターとして今後どのような取り組みを行っていかれる予定でしょうか。

原 部長：これまでは受診者側も料金や健診の内容で受診施設を選択されていましたが、最近では第三者機能評価の認定を得ているかどうかを判断材料にされる動きが強まっています。そのため当センターも2010年5月に人間ドックの施設機能評価の認定証取得に向けて取り組んでいるところです。医療の進歩は日進月歩といいますが、健診の世界も日々



ヘルスサポートセンターシステム構成図

進化しております。当センターではここ1年間に、専門の医師や保健師によるアンチエイジングドックや生活習慣病ドックを新たに加えるなど、ご利用者さまの幅広いニーズに応えられるよう努めており、今後も常に時代に沿った形で質の高い健診を提供していきたいと考えています。

●メーカーへのご要望

井桁：今回のシステム更新を終えられて、今後日立メディコに対しどのようなことをご望みでしょうか。

原 部長：以前保健指導のシステムの導入を検討しましたが、専用のサーバが別途必要になるなどの理由で予算に合わず、導入を見送った経緯があります。まだ受診者数が少ない(100名未満/年)ため現状フリーソフトで対応していますが、会計が健診分と別になってしまうことが難点です。別途サーバを導入せずとも保健指導をオプションとして追加できるようなシステムをぜひとも期待しています。

伊東副センター長：今回、処理速度が改善した自動判定は、総合所見のコメント部分があるままだと主語が変わっただけの同じような文面が並んでいたりするため、それらを手直しの作業が発生しています。確かにすべてのコメントを整理したり、見やすく並べるといったことをシステムで自動化することは難しい内容だと思いますが、ぜひとも改善を御願

したいところです。

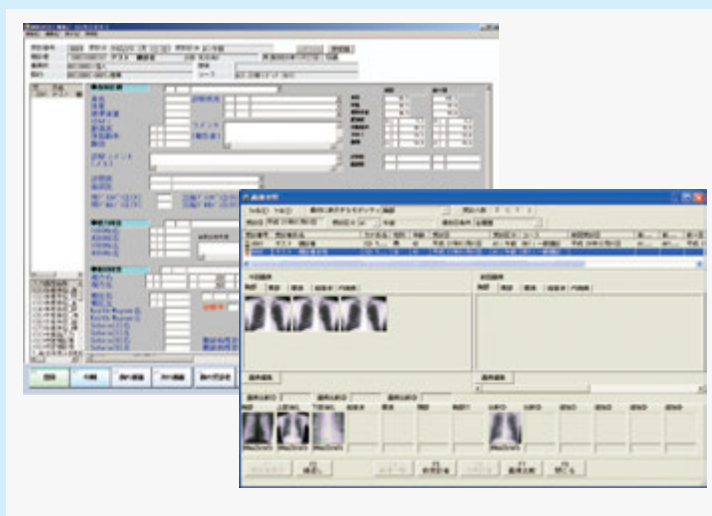
井桁：自動判定の部分にはいろいろと課題が残っていると思っております。いただいたご意見を実現すべく、今後ともシステム改善に向けて技術的な調査を含め検討を進めてまいりたいと思います。

今回、ヘルスサポートセンターのシステム更新について関係する多くの部門の皆様にご意見をお聞きすることができ、また充実した施設と先端的に健診事業へ取り組まれている様子を拝見し、大変感銘を受けました。システムを提供するメーカーとして、健診事業にお役に立てるような製品の開発と提供に改めて責任を感じました。ご多忙の中、長時間に渡りご協力いただきまして誠にありがとうございました。

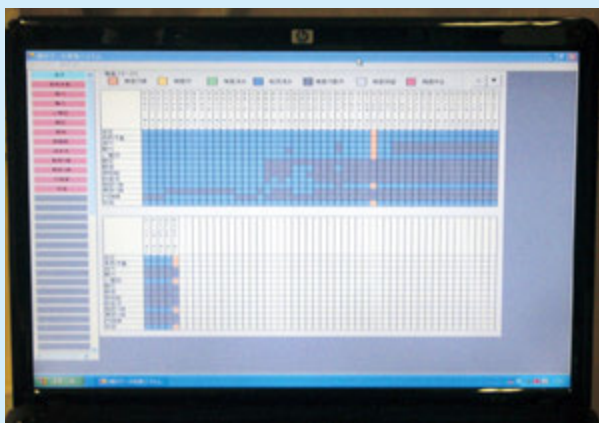
- ※1 ヘルゼア、※2 OPEN-PACS、※3 medix、※4 Hellseher Neo、※5 ヘルゼア ネオ、※7 WeVIEWは株式会社日立メディコの登録商標です。
- ※6 けんしんくんは株式会社アークテックの登録商標です。
- ※8 InBodyはバイオスペース・カンパニーリミテッドの登録商標です。
- ※9 WindowsNTおよび Windowsは米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ※10 HILASは株式会社日立製作所の登録商標で株式会社日立ハイテクの製品です。



健診データ収集システム「けんしんくん」待ち受け画面



次世代型 健診業務トータルサポートシステム「Hellseher Neo」



健診データ収集システム「けんしんくん」全体進捗画面



横浜支店 螺良部長(左)、筆者(中)、
メディカルIT戦略本部 立花(右)